

市民によりそい みらいに繋ぐまち

もくじ

- 2 市民によりそいみらいに繋ぐまち
- 4 安心して子育てができるまち
- 6 みらいを担う子どもたちを応援するまち
- 8 住み慣れた地域でいつまでも暮らせるまち
- 10 みらいに向かって挑戦するまち
- 12 安全安心を感じられるまち
- 14 コロナ対策
- 15 つくばみらいDX

市民によりそう市政の実現に向けて

つくばみらい市では、市民の皆さんとの対話を重視した「市民によりそう市政」の実現に向けて歩みを進めてまいりました。令和元年度から各地域に伺い、市民の皆さんのご意見を直接お聴きしてきました。令和2年度までにいただいた623件のご意見やご要望のうち397件（64%）が解決に至りました。

市長との意見交換会「みらいを語るば meeting」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送っていた期間がありましたが、令和3年11月に再開し、令和3年度中には、市内全地区を一巡します。

引き続き、「みらいを語るば meeting」をはじめとするさまざまな機会をとらえ、市民の皆さんからのご意見などをお伺いしてまいります。



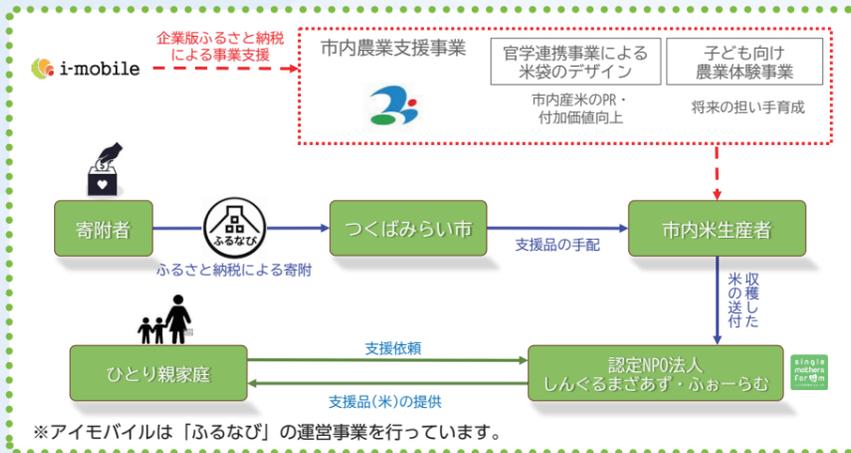
つくばみらい市長
おだかわ ひろし
小田川 浩

図 地域推進課

アイモバイルとの連携

アイモバイル社と連携し、ふるさと納税と企業版ふるさと納税を組み合わせた取り組みの実証実験を進めています。

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングによる寄附金で購入した市内産米を、全国のひとり親家庭に届けることにより、コロナ禍で疲弊するひとり親家庭への支援だけでなく、市内産米のPRや販路拡大などを積極的に進めていきます。



みらい平郵便局で より便利に

みらい平市民センター1階にみらい平郵便局を誘致しました。新しい郵便局の開局で市民の皆さんの暮らしがさらに便利になりました。

今までは自転車で遠くの郵便局まで行っていたのですが、家の近くに開設したので、とても便利になりました。
（佐藤さん／70代男性）



電気バス

県内初！

つくばみらい市は、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを宣言しており、目標実現のため県内初の「電気バス」をコミュニティバスとして導入しています。

完全電動のため、二酸化炭素などを排出することなく走行可能です。



図 都市計画課

新しい働き方ができる場

みらい平市民センター4階M・SPACEには、オンラインによる予約が可能で、テレワークなどにも利用できる個室を6部屋、設置しました。

都内に通勤していましたが、テレワーク中心となったため、M・SPACEを利用しています。使用料が安く、通信環境も良いのでとても便利です。
（海老名さん／30代男性）



エム・スペース
M・SPACE
平均利用率 61.3%

ふるさと納税

令和2年度総寄附額
約4億4000万円

令和3年度は前年度より寄附受入額が約5.8倍

令和2年度11月末
約1億2000万円

令和3年度11月末
約7億100万円

※令和3年11月作成

・寄附額が大幅UP！
・返礼品取扱事業者数増加で、市内事業者の販路拡大や、市特産品のPRにも！

返礼品数も約2倍！

令和2年度約340品
令和3年度約750品

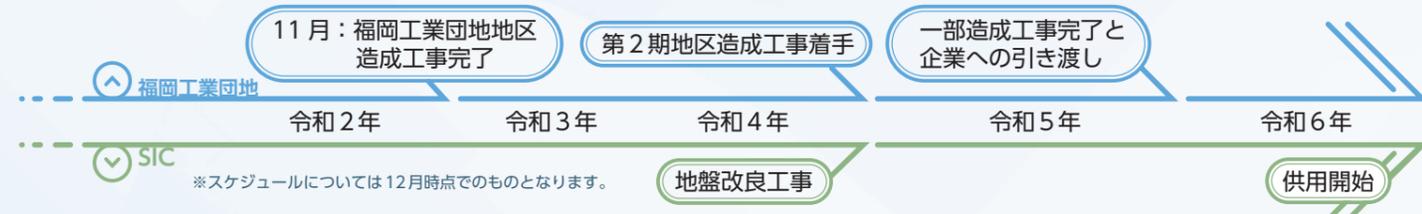
※令和3年11月作成

福岡工業団地、SIC、動き出す

図 プロジェクト推進課

福岡工業団地

福岡工業団地地区は令和2年度に造成工事が完了し、新たな産業の活動拠点として動き出しています。さらに、第2期地区の造成工事が令和4年度から開始される予定です。



SIC（スマートインターチェンジ）

現在用地買収の準備を進め、来年度からは地盤改良工事に着手します。周辺地域については、市の魅力を発信する新たなエリアとして、広域的な賑わいを創出するための拠点形成を目指しています。